

●コース距離：12.8km  
●歩行時間：約3時間30分

- 1 JR品川駅  
↓ 1.4km
- 2 品川宿本陣跡  
↓ 1.6km
- 3 品川寺  
↓ 1.6km
- 4 浜川橋  
↓ 0.7km
- 5 鈴ヶ森刑場跡  
↓ 1.0km
- 6 磐井神社  
↓ 1.6km
- 7 梅屋敷公園  
↓ 2.8km
- 8 六郷神社  
↓ 0.9km
- 9 六郷橋  
↓ 1.2km
- 10 JR川崎駅



### 9 六郷橋

六郷は東海道が多摩川を横切る要地で、この地に徳川家康が六郷大橋を架けさせた。江戸時代に何度か架け直され、貞享5年(1688年)の洪水以後、橋は再建されず、六郷の渡しが設けられた。



### 8 六郷神社

天喜5年(1051年)に源頼義、義家の父子が奥州討伐のとき、この地の大杉に源氏の白旗をかけた戦勝を祈り、凱旋後、報恩のためにこの神社を建てたのが起こり。神社内には慶長5年(1600年)に徳川家康により架けられた六郷橋の橋柱がある。



### 7 梅屋敷公園

文政年間(1818~1830年)に和中散という道中の常備菜で繁盛した山本家が、梅をはじめとする多くの木を植え、東海道を旅する人の休み茶屋を開いたのが始まり。現在は約30本の梅の木が植えられた区立公園となっている。



### 6 磐井神社

創建の時期は定かではないが、延喜年間(901~921年)にはすでに存在していたという記録が残っている。ここには、転がすと鈴の音が森一帯に響き渡ったので、鈴ヶ森という地名がつけられたといわれる鈴石がある。



# Walking Course

### 10 JR川崎駅

川崎宿は品川宿と神奈川宿の伝馬負担を軽減するために、他の宿場より遅く、元和9年(1623年)に開設された。現在の六郷橋から小川町あたりまで約1.5kmにわたる宿場町は、川崎大師が近く、参拝客で賑わった。今回の旅はJR川崎駅で終了。



# 快汗ウォーキングコース



## 東海道五十三次の品川宿から川崎宿まで、往時の面影を求めて歩く1日コース

徳川家康が江戸・日本橋から京都・三条大橋間に伝馬制度を確立したのが旧東海道の始まりで、約500kmの街道には53の宿場が置かれていました。今回ご紹介するコースは、東海道第一の宿場・品川宿を立ち、川崎大師の参拝客で賑わう川崎宿まで、本陣跡など往時の面影を求めて歩く旅です。



### 1 JR品川駅

品川宿は約2kmにわたる宿場町として、東海道ではもっとも賑わった宿場の一つ。北宿、南宿、新宿に分かれ、現在の京急線の北品川駅から青物横丁駅周辺にかけて広がっていた。今回はJR品川駅をスタートし、品川宿本陣跡へ。



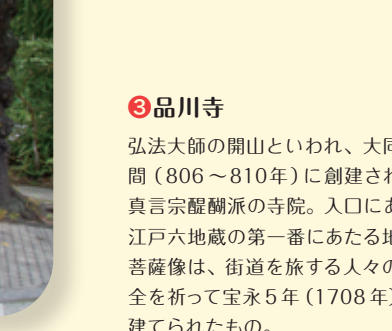
### 2 品川宿本陣跡

かつては北品川、南品川に1軒ずつあったが、江戸時代中期頃に南品川の本陣が廃止になり、北品川の本陣だけが残された。跡地は聖蹟公園として整備されている。



### 4 浜川橋

立会川の最も下流に架かるこの橋は、この先にある鈴ヶ森の刑場に引かれる罪人と縁者が、共に涙を流しながら別れたということから、「涙橋」と呼ばれるようになった。



### 3 品川寺

弘法大師の開山といわれ、大同年間(806~810年)に創建された真言宗醍醐派の寺院。入口にある江戸六地藏の第一番にあたる地藏菩薩像は、街道を旅する人々の安全を祈って宝永5年(1708年)に建てられたもの。



### 5 鈴ヶ森刑場跡

慶安4年(1651年)に開設された、間口74m、奥行16mという広さの仕置場で、明治4年まで存続していた。江戸に入る浪人たちに警告を与える意味で、江戸の入口ともいえるこの場所に設置された。

